

2014 vol.38

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

PRESS

特集

あの日も今日も 憧れの団地ライフ



Special
Interview

一度きりの人生。
憧れ続けてきた
ブルームスと向き合う

ヴァイオリニスト

葉加瀬太郎 さん



CONTENTS

01 まちの記憶 ① 「ともに年を重ねる」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす

葉加瀬太郎さん

ヴァイオリニスト

一度きりの人生。憧れ続けてきた
ブラームスと向き合う



07

特集

あの日も今日も憧れの団地ライフ

09 団地の誕生創成期

日本人の住まいを根底から変えた新しい時代の幕開け

年月を経ても色あせない
モダンライフと団地の魅力



13 進化する団地現代事情

子どもを見守り、家族の時間を紡ぐ新しい団地ライフ
幕張ベイタウン(千葉県美浜区)

子どもからお年寄りまで住む人に寄り添う新しい団地へ

17 ベランダ菜園の楽しみ ① たなかやすこ

見た目が大事。眺めて美しく、料理にも重宝！



18 人気プロガーの団地DIY術 ① Kume Mari

タイル貼り、対面式カウンター付きのキッチン

世界の扉を開く本 ① 三田修平

今号のテーマ▶住まい

19 復興の「今」を見に来て! ①

とびきりの美味を揃えて待っています

宮城県東松島市



21 プレゼント付きクロスワードパズル

22 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.38

2014年7月31日発行

発行 独立行政法人都市再生機構

〒231-8315

神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー

Tel 045-650-0892 Fax 045-650-0889

制作 日本経済社

編集協力 新潮社、編集室りっか

デザイン 太田デザイン事務所

印刷 凸版印刷

※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。

表紙の世界

うだるような暑さから解放され、
行き交う人の交わす言葉も
軽やかになる、
そんな初秋の小道を、
リズムカルな曲線の連続で
表してみました。



イラストレーション・小林マキ



かくた・みつよ

作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文芸賞を受賞しデビュー。「対岸の彼女」(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は「平凡」(新潮社)。

ともに年を重ねる



子どものころ、

私のあこがれの住まいは団地だった。私の育った町には高い建物はなく、二階建ての民家と田畑が平たく続いていた。三階建てや五階建ての団地は、そのなかでは「高層住宅」だったし、それに、友だち同士が住んでいたりするのも、うらやましかった。友だちと学校からいっしょに帰り、眠るまで遊ぶことができるのではなか、そう思うと興奮した。私はバスに一時乗った先の小学校に通っていたので、そんなふうには気楽に行き来できる友だちが、近所にいなかったたのである。

そうして団地には、

いろんな隙間があるように

思えた。隙間、というのは、用途のないスペースである。階段の下とか、物置の裏とか、自転車置き場のあたりとか。私はとにかくそういう、放置された狭い場所が好きだった。秘密基地に最適だと思っていた。

高い建物のないちいさな町を出て、東京で暮らすようになってからも、そのあこがれはまだ残っている。団地が巨大化したような、何十世帯も住める集合住宅を見たときは、思わず見とれてしまった。

私が子どものころにあったような、真四角の団地は今ではずいぶん少なくなつて、モダンで、それぞれ個性的な団地が増えた。私の住む町にある団地も、敷地全体が広々としていて、建物がお洒落で、緑の木々がたっぷり植えられ、歩道も広場もゆつたりとつくられていて、

その周囲を歩いているだけで気持ちがいい。

週末にランニングをしているのだが、あるとき、隣町まで走って行って、道に迷ったことがあった。迷っても、走っていれば見知ったところに出るだろうと、気まぐれに角を曲がり続けていた。そうしてある角を曲がって、足を止めた。

広い敷地に、

あんなつかしい、白くて真四角の団地がずらりと並んでいるのである。ずいぶん規模の大きな団地だったようだけれど、取り壊すのか建て替えるのか、どの建物にもだれも住

んでいなかった。建物のあいだにはブランコがあり砂場があり、木々が縁取り、そして私の好きな「隙間」がそこそこにある。季節外れで花は咲いていないけれど、ずいぶん立派な桜の木があった。タイムスリップしてみたんだ、と思いつつ、ふと思った。この団地がまだ新しいころ引越してきた若い夫婦、ここで育った子どもたちとともに、この建物は年齢を重ねてきたのだな、と。そう思うと、今はだれも住んでいない建物が、ずいぶん威風堂々として見えた。満開の桜を見上げるかつての家族の姿が、見えるようだった。そしてまたふたたび、子どものときとは異なるあこがれを、私は団地に抱くのである。

Special Interview

Hakase Taro

「長屋」みたいに濃密な
コミュニティだった団地暮らし

4歳のとき、千里ニュータウンの南地区(大阪府吹田市)に引っ越したのですが、記憶にあるのは6歳くらいからですね。6畳に4畳半の2DK。両親に妹2人の5人家族なので、夜になるといろいろなものをどかして、布団をずらっと敷いて寝る、そんな生活でした。

第2次ベビーブーム世代だから小学校は一学年10クラスもあって、団地内も子どもだらけ。よくキックベースやキャッチボールをして遊んでたんですが、ボールが近所の家の窓ガラスに当たって、その家のおじいさん

から「こらーっ!」と怒られることもあったな(笑)。団地のプロックごとに公園があり、池のザリガニを捕ったりして、子どもみんなが一緒になって育った感じでした。

今の都会のように、隣に住んでいる人のことがわからないなんて、当時の団地ではあり得なかった。どの家も玄関は開けっ放し。長屋みたいに濃密なコミュニティでした。みんなでワイワイ楽しむのが好きな僕の性格は、あの頃の団地暮らしで育まれたような気がします。

ヴァイオリンを習い始めたのも団地に移った年です。飲食関連の仕事をしていた父が、店のお客さんから「何か音楽をやらせたら?」とすすめられたのがきっかけだったと後から聞きましました。ピアノは大きすぎて置けない。そこで、子ども用サイズのヴァイオリンを父が買ってきて、教室に通うことになったんです。

当時、千里ニュータウンでは子どもの習い事が盛んでね。親の世代は自分ができなかったことを子どもに託したんでしょう

一度きりの人生。 憧れ続けてきた ブラームスと向き合う

4歳から高校2年のときまでずっと団地住まいの環境で育った、葉加瀬太郎さん。ヴァイオリンを始め、音楽家の道を志したのもこの頃だ。

プロとなり、型にはまらない、マルチな音楽活動が続けてきた彼が、今、自分のルーツであるクラシック音楽と、再び真摯に向き合っている。そこに込められた思いを聞いた。



はかせ・たろう
1968年、大阪府生まれ。
東京藝術大学在学中の90年に
KRYZLER & COMPANYの
一員としてメジャーデビュー。
96年からソロアーティストとして活動を開始し、
セリーヌ・ディオンの共演で
世界的に知名度を高める。
2002年、自身が音楽総監督を務める
レーベル「HATS」を設立。
アーティストやイベントのプロデュースをはじめ
商品企画なども手がけ、幅広く活躍。
毎年恒例となっている野外イベント「情熱大陸スペシャルライブ」
およびクラシックスタイルでの全国ツアーは
多くのファンが楽しみにしている。
8月にニューアルバム
「Euphonia - Best Acoustic」をリリース予定。



ヴァイオリニスト

ね。僕も例に漏れず絵画にそろばん、剣道にサッカーと、一週間全部、お稽古事で埋まっていた。ヴァイオリンも情操教育の一環として楽しくお稽古しましよという雰囲気でした。

音楽の道へ 人生の転機が訪れる

僕の人生が大きく変わったのは、小学校4年生、10歳の頃に

同じ千里ニュータウン内の北地区に引っ越した時からです。

大阪の三木楽器でマスタークラスの公開レッスンを受けたのを機に、東儀祐二先生という、五嶋みどりさんはじめ、そうそうたるヴァイオリニストを育てられた先生を紹介してもらい、5年生からレッスンを受けるようになったんです。ところが、僕の弾き方はまったく通用しな

団地暮らしが僕の“原点”を育んだ

い。楽譜も読めなかった。最初の半年間は基礎から叩き直されて、一曲も弾かせてもらえませんでした。

ちょうどその頃、のぶちゃんという可愛くて、ヴァイオリンをやっている女の子と出会ったんです。僕の目の前で20世紀初頭の天才ヴァイオリニスト、フリッツ・クライスラーのかなり難しい曲を弾きこなし、それが猛烈に上手だった。シヨックでした。劣等感を抱いたくらい。初恋の相手でもあったから、モテたい一心で、僕も必死に練習しました。動機が不純だけど(笑)。

のぶちゃんは団地の一棟隣に住んでいた。その後家族ぐるみで親しくなって、毎日登校前に一緒にヴァイオリンの練習をしていました。近所迷惑にならないように、自宅での練習は夕方の4時から夜の9時までと決めて、5時間みっちり練習。のぶちゃんとはクラシック・コンサートもいっぱい聴きに行ったなあ。それが僕らのデパートだったんです。

将来の目標ができたのは、中

学2年のときです。西日本のコンクールで2位になったことで自信がつき、将来はNHK交響楽団のコンサートマスターになるんだと、心に決めていました。テレビで「N響アワー」を見るのが楽しみで、好きなヴァイオリンが仕事になるうえに、毎週テレビに出られるなんて最高だなと。目立ちたがり屋だったんです、当時から(笑)。

おこづかいで買うのはクラシック・レコードばかり。同級生が松田聖子ちゃんや中森明菜ちゃんに夢中になっていたので、僕はアイザック・スターンや古澤巖さんといった、ヴァイオリンの大御所の写真をクリアファイルに入れて持ち歩く、そんな中学生でした。

高校は、10歳から教わっていた東儀先生の母校である、京都市内の堀川高校音楽科へ進みました。高校2年生で学校の近くの学生マンションに移るまで、団地の押し入れの一角が、ずっと僕の専用コーナー。カラーボックスの本棚、ラジオとカセットデッキを置いて、昼は勉強机に、夜はベッドとして利用して

痛切に思いました。ロンドンで、団地暮らしの時代の自分に出会ってしまったのです。

そんな頃、娘のレッスンをロンドン近郊のメニューイン音楽院に行く機会があり、ヴァイオリンの主任教授である小野明子先生のすばらしい腕前を拝見したんですね。「ぜひ僕もレッスンしてください。左手のテクニックに忘れていた部分があるので取り戻したいんです」と入門したところ、「あら、右手もダメねえ」と言われて(笑)。

ロンドンのまちはしっくりと肌になじむ

いままで。そこで自分の世界にこもり、音楽に没頭していると何も考えずにいられた。ひたすらブラームスの曲ばかり聴いていました。

藝大進学以降、ジャンルを超えて挑戦。そして今……

今、15〜16歳までどっぷり聴いていたブラームスに向き合っています。クラシック界の正統派の方々がブラームスの名盤を残していらつしやるし、べつに葉加瀬太郎がやらないと、長年そう思っていました。

た。さらに言えば、僕は40歳ぐらいいはヴァイオリンを置くつもりでした。年間約100本、毎回3時間ものコンサートツアーをこなすヴァイオリニストというのは、アスリート並みに体力を消耗しますから、40歳を過



古澤巖さん(左)とユニットを組みコンサートツアーを行った。

ぎたらず無理だろうな、と。その後はプロデュースや作曲に専念しようかと考えていました。その考えを改めるきっかけとなったのが、37歳のとき、尊敬する古澤巖さんとユニットを組んでまわったコンサートツアーでした。古澤さんとは、僕が大学生のとき、セカンドヴァイオリンを務めさせていたでいて以来の再会でした。僕より9歳年上の先輩がヴァイオリン一筋でずっと続けてこられて、ますます技術が上達し、円熟味を増しておられた。そんな古澤さんから、

「葉加瀬さあ、80歳になっても一緒に弾こうな」と言われたんですよ。僕にとってはこれがデカかった。15歳の時から憧れていた人にこう言われちゃ、やるしかないよなあ、胸にズシンとききました。

でも、自分はちゃんと弾けてないという自覚もあったから、次々に舞い込む仕事から逃れて、中学の時のようにただひたすら自分の世界にこもって、ヴァイオリンと向き合う時間がほしかったんですね。それがロンドンに移住することになった、大きな理由。なぜロンドンかというと、かつてセリーヌ・ディオンの折に「いつかこのまちに住みたい」と思ったんです。なぜかわからない。まちの雰囲気肌に合ったんでしょね。

ブラームスをやりたいという気持ちだが、むくむくと湧いてきたのは、ロンドンに住んでからです。ブラームスは、19世紀、ロマン派のクラシック音楽が最も花開いた時代の作曲家であり、とりわけ弦楽奏者にとってはエベレストのような存在。優れたテクニックが必要なのももちろん、深い理解力がないと弾きこなせません。子どもの頃から一番愛していた、そのブラームスを、一度しかない人生なのに、やらないでどうするの？ そう

10歳の頃に東儀先生からダメ出しされたときとまったく同じシチュエーションです。小野先生に基礎から鍛え直してもらい、早7年が経ちました。60歳までになんとかモノにしたいと頑張っています。

震災の一報を受けてひまわりと僕

僕は阪神・淡路大震災で大切な人を何人も亡くしていますから、ロンドンで東日本大震災の一報を聞いて、いても立っても

コンサートは"元気"がテーマの祭り

いられず、ピカデリーサーカスにある三越デパートの支配人などの協力も得て、すぐに街角コンサートに踏み切りました。それを公共放送BBCが朝のニュースで配信してくれて、どんどんチャリティー活動の輪が広がっていったんです。一人ひとりができることをすればいい。これからも僕にできることを一杯やっていくつもりです。また当時、僕がテーマ曲「ひまわり」を手がけていた、NHKの連続テレビ小説「つばん」の放映が震災で一時中断されました。それが一週間後に放映再開した直後から、多くの方々、仮設住宅に住んでいる方たちからも「失った日常が少し戻ってきた、うれしい」と、ツイッターなどでたくさんさんのメッセージをいただきました。

じつはひまわりは僕にとつて、娘の名前につけたほど好きな花であり、元気の象徴なんです。だから、みんなが元気を分かち合う「祭り」にしたいとの思いから、多くのコンサートでひまわりの種をお客さん一人ひとりに配り、この曲をほぼ毎回演奏しています。「ひまわり」が収録された最新アルバム「エトピリカ」は、僕がクラシックという自分のルーツに立ち戻り、心から信頼できるミュージシャンたちと作り上げたアコースティックな音楽の集大成でもあるんです。震災を忘れないために、僕の「祭り」で各地の人を元気づけ、そして僕たちも元気をもらえるよう、今年の秋は全国47都道府県、すべてツアーして回るつもりです。



New Album



8月6日に発売となるアルバム「Etopirika ~Best Acoustic~」は、エレクトリックは一切使わないアコースティックな楽器編成。力強く、温かみもある葉加瀬さんの魅力が詰まったクラシックスタイルの一枚だ。「情熱大陸」などの代表曲をはじめ、ファンに人気の高い楽曲の数々が収録され、バラエティに富んだ構成。

HUCD-10166
3,000円(税別)

日医工presents
葉加瀬太郎
Best Acoustic Tour
"エトピリカ"
supported by Iwatani

ニューアルバムの発売にあわせて、9月~12月にかけてコンサートツアーを開催。9月4日の東京でのコンサートを皮切りに、葉加瀬さんとその仲間たちが47都道府県をすべてまわり、元気を届けます！詳しくは、HATS(ハッツ)オフィシャルウェブサイト hats.jpをご覧ください。

Concert Information

幕張海浜公園に隣接し、豊かな自然に恵まれた幕張ベイタウン(千葉県美浜区)は、新たな都市型住宅地を目指して開発された。ヨーロッパを思わせる調和のとれたまちなみには、新しい時代の団地の魅力が凝縮されている。



団地ライフ



今日もあの日も憧れ



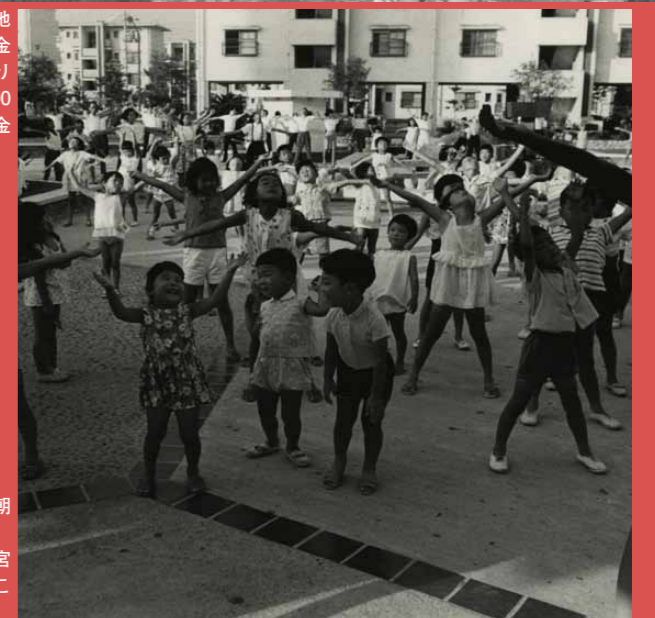
日本にはじめて公団住宅Ⅱ団地が誕生したのは昭和31(1956)年。戦後の住宅不足の解消を目指して建てられた団地には、庶民が憧れる最先端の暮らしがありました。それから約60年。日本の成長とともにかたちを変えながら、団地は住む人に寄り添い、憧れの住まいを提供し続けています。

現在のUR都市機構は民間企業や大学などと連携しながら、古い団地の再生などに取り組んでいる。写真はTSUTAYAとコラボして新しいライフスタイルを提案する、アーベインルネス梅光園(福岡市中央区)のモデルルーム。

イブ

の

日本住宅公団の第一号団地は、昭和31年に完成した金岡団地(堺市北区)。間取りは2K、2DKで、全部で900戸。近年、サンヴァリエ金岡として建替えられた。



団地の夏休みの1日は、朝のラジオ体操で始まった。浜甲子園団地(兵庫県西宮市)、昭和37年頃のひとこま。



憧れの2DK

千葉県松戸市立博物館は、同市にある常盤平団地の2DKを復元し、当時の暮らしを再現した展示を行っている。昭和35年から入居が始まった常盤平団地は、東京方面に勤める比較的高収入の人が多く住んでいたという。写真は上から洋風に設えた6畳間、中央にシンクを置いたステンレス製の流し台、ダイニングキッチン。
写真/松戸市立博物館



団地は子ども天国

同年代の友達がたくさん住む団地は、子どもたちにも天国だった。遊び場も団地の中に整っている。いつでも子どもたちの笑い声が響き、周囲の大人たちがその姿を見守っていた。藤の台団地(東京都町田市)。

三種の神器が登場

昭和31年に完成した志賀団地(名古屋市北区)で、当時、出始めたばかりの電気掃除機を使う住人。写真/植田茂夫



庶民の暮らしをご視察

昭和35年9月、当時の東京都北多摩郡にできたばかりが丘団地(現・西東京市、東久留米市)を訪れた、皇太子殿下と美智子妃殿下(当時)。訪米前に国内事情を視察する目的で、団地の室内をご覧になった。当時の記事によると、「概して便利で明るい」というのが、お二人のご感想だったようだ。
写真/植田茂夫



申し込みが殺到!

団地は憧れの的。入居競争率は10倍から20倍にも。抽選に当たれば、一家で大喜びだ。昭和35年、団地の申し込みをする人々の様子は、新聞でも報道された。
写真/毎日新聞社



団地の誕生 創成期

日本人の住まいを根底から変えた 新しい時代の幕開け

誕生したばかりの団地とは、どういう存在だったのか。その頃を知る人々のお話から、団地創成期をのぞいてみた。

「食寝分離」の 新しい住まいが誕生

戦後の日本は、あらゆるものが足りない中からスタートした。ことに住宅事情は劣悪で、昭和29年になっても、日本全国で約280万戸もの住宅が不足、その建設は急務だった。

日本住宅公団は大規模な宅地開発を行い、不燃住宅を供給することを目的に、昭和30年に設立された。都市への人口流入が進んだ高度成長期、日本住宅公団は都市近郊に大規模な団地を次々と建設していった。

「明るい台所にはステンレス製の流し台が設置され、浴室と水洗トイレが住戸内にある。これこそ新しい時代の住まいだと、大変な衝撃を受けました」
昭和31年、名古屋市に誕生した公団住宅・志賀団地で新婚生活を始めたという男性は、当時をそう振り返る。それまでの日本の家では、食事のときには和室にちゃぶ台を出し、それを片付けて布団を敷いて寝るといったスタイル。それが団地では、食事する部屋と寝る部屋が別という点も画期的だった。

「当時の志賀団地は大病院のドクターも住んでいましたね。その頃、出始めた家電の三種の神器、テレビ・洗濯機・冷蔵庫をちよつと無理して購入して、まさに時代の最先端の生活、憧れの暮らしを楽しみました」

応募に殺到、団地には 希望が詰まっていた

その憧れの暮らしを手に入れる方法は抽選だった。人々は新しい団地の応募に殺到した。当時の日本住宅公団の職員・植田茂夫さんはこう証言する。

「団地の募集があると、門前市を成す」という表現の通り、人々が当時、東京の九段下にあった日本住宅公団の窓口に殺到しましたね。フロアは人で埋まり、通りまで人波が続いていましたよ」

冬至の昼間でも4時間日照があること、住戸のプライバシーを確保するため、建物高さの1・8倍の棟間隔をあげることなど、現在にも続く団地の基準は、この時期にまとめられている。
日本人の暮らし方を根底から変えた団地には、庶民の希望が詰まっていた。



上/香里団地にある「木漏れ日水路」は、夏になると団地の子どもたちに人気の遊び場になった。
下/火災工場だった土地に建てられた香里団地。完成時にはまだ戦争の残骸が見つかり、福岡さんはその撮影から始めたそうだ。
上下写真/福岡崇夫(左)



団地の商店だけでは間に合わず、広場には野菜や果物の移動販売車が毎日何台もやってきてにぎわった。香里団地(大阪府枚方市)のモノクロ写真は3点とも昭和35年~40年に撮影。写真/福岡崇夫

完成直後のけやき台団地(東京都立川市・昭和41年頃)。団地には遊び場がいくつもあり、いつでも子どもたちのにぎやかな声が響いていた。
写真/立川市歴史民俗資料館



上/現在のけやき台団地。国立駅からバスで10分ほど。団地内にスーパーや商店があり、生活の不便はない。
左/イラストを描くだけでなく、ポップアートも手がける駒村さん。一人暮らしを存分に楽しんでいる。



団地の誕生 創成期

年月を経ても 色あせない モダンライフと 団地の魅力

昭和30年代から40年代の高度成長期の日本に出現した団地は、何十倍もの狭き門を経て入居できる、まさに「憧れ」の存在だった。誕生したばかりの団地の暮らしは、どのように紡がれていったのか。団地創成期から今日まで団地にお住まいの人々にお話をうかがった。

鍵ひとつで戸締りできる 団地はなんて便利なんだ

今こそ当たり前の水洗トイレや、住戸内にある浴室、ステンレス製の流し台を完備した団地。大阪府枚方市に昭和33年に完成した香里団地に、昭和35年からお住まいの福岡崇夫さんは、当時の団地の魅力を「何ととっても、生活がラクでした」と振り返る。

「当時、田舎ではまだトイレは家の外、風呂も薪で焚く暮らしでしたから、ガスをひねれば風呂が沸く団地の暮らしには、本当にびっくりしたものです。シンダー錠ひとつで戸締りができるのも、便

利でしたね」
写真が趣味の福岡さんは、香里団地ができたときから、団地のさまざまなシーンをカメラで撮影してきた。

「夏の朝、バス停に若い奥さんがずらり並んで、ご主人を見送る姿が思い出深いですなあ」と話すのは、カメラを持つ人ならではのひとコマだろう。

同じ香里団地に今も暮らす73歳の主婦は、入居当時、団地が外からどのように見られていたか思い出す。

「昭和33年といえば、まだまだ日本は貧しい時代。当時の団地にはお医者さんや大学の先生、弁護士

便利で子育てに絶好の モダンライフ

次に東京都立川市のけやき台団地にお住まいの駒村多美子さんを訪ねた。磨き込まれた木の床が美しい風合いの艶を放ち、窓からは植え込みの緑が鮮やかに目に入る。3Kの間取りはコンパクトだが、今はシングルで暮らす駒村さんに、十分過ぎるほどの広さだ。

「昭和42年に入居したときには、部屋も団地自体もなんて広々としていたんだろうと驚きました。解放された気分でしたね」

き台団地には、隣接してけやき台小学校が新たに建てられた。団地内には今でいうスーパーや各種商店があり、日常生活はここですべてこと足りた。

周囲は同じ世代の家族がほとんどだ。広場では夕方になると子どもたちがにぎやかに群れ遊んだ。「絵を描くのが大好きなので、団地の子どもたち相手に紙芝居を自作自演していましたね。大勢の子どもたちが集まって、大好評だったのよ」と駒村さん。

盆踊りや夏祭りなど団地を挙げての行事には、外からも大勢人が来て盛り上がった。こうしたコミュニティ活動も盛んで、おのずと人間関係の輪も広がる。

「昭42年に入居したときには、部屋も団地自体もなんて広々としていたんだろうと驚きました。解放された気分でしたね」
都内のアパート暮らしから、幼い2人の男の子のためによりよい住まいと環境を求め、ここへ移ってきた。当時から最寄駅の国立周辺はモダンなまちで、その郊外にできたけやき台団地も人気は高く、入居は抽選だった。

駒村さんの新天地となったけや

「一人になっても、団地を出て行く気なんて起きません。それはみんな同じだと思います」
憧れの団地暮らしは、たくさん思い出とともに、今もかけがえない時間を紡いでいる。

進化する
団地
現代事情

子どもを見守り、家族の時間を紡ぐ 新しい団地ライフ

職・住・学・遊が融合した未来型都市として開発された幕張新都心。「幕張ベイタウン」はその一角に創られたまちだ。美しいまちなみや豊かな緑といった住環境だけでなく教育環境の面でも人気を集めている。新しい「憧れの団地ライフ」を満喫する仲良し一家を訪ねた。

団地の友達と家族同士でキャンプに行くこともある。「このまちが大好き」と話す阿部さん一家。



子どもたちのため 最高の環境を求めて

鍵盤に走らせる指先から、力強いメロディが流れ出す。阿部家の居間でピアノを披露してくれたのは、長男の翼くん。「コンクールにも挑戦しているんですよ」と語る豊さん望さん夫妻も、姉の和さ（みづさ）んもちょっぴり誇らしげな表情だ。翼くんと和さんはともに、幕張ベイタウンに住んでいる先生にピアノを習ってきた。練習の励みとなる晴れの舞台は、音楽を教えるこのまちの先生方が共同で夏と冬に開いているコンサートだ。会場は、音楽をはじめ文化活動の拠点となっている複合施設、ベイタウンのコア・ホール。

道路を渡れば海と海浜公園が目の前という抜群の環境。富士山とスカイツリーが同時に見えることも。



コア・ホールの発表会で弾く翼くん。全国レベルのコンクールにも出場するほどの腕前だ。



自治会が主催する幕張ベイタウン祭りに、韓国料理の屋台を出店して楽しんだ。

かせる。

音楽に限らず、このまちでは多彩なスポーツや趣味の教室、自主グループなどが活動し、それを支える環境や仕組みも整っている。翼くんがピアノに夢中になり、和さんはバレエや歌も習ってCD製作に参加するなど自分の世界を広げられるのも、このまちの恵まれた環境があればこそ。

音楽やスポーツが 身近に息づく環境

「このまちは子育てに最高です。教育的にも文化的にも、これほどの環境はありません」と

と夫妻は口を揃える。阿部さん

一家が幕張ベイタウンに同居したのは12年前。和さんの小学校入学の前に教育環境を考えて引っ越してきた。広い歩道のある街路が基盤目に走り、個性的な集合住宅が並ぶ幕張ベイタウン。ここには小学校が3校もある。どこも門も塀もないオープンスクールで、先進的な教育を行う実験校として名高い。阿部さんの住まいは、子どもたちが教室に入っていくのを確認できるほど学校に近い。

と二人は目を輝

このホールには、日本に数台しかない知る人ぞ知る現代の名器、ファツィオリのピアノが備えられている。「希望者は月1回『ファツィオリの会』で弾くことができるんですよ」と二人は目を輝

地があり、広大な幕張海浜公園にも隣接している。阿部さん宅からは海も目と鼻の先にある。

まちの特質としてもう一つ特長なのが、住民の意識の高さだ。「文化的なものへの関心はもちろん、コミュニティ活動に熱心な方も多いですね」

コア・ホールの運営には住民も参加。ファツィオリのピアノは住民たち主導で導入されたもので、5月のベイタウン祭りは自治会連合会の主催だ。ママ友同士で子どもをお迎えを頼んだり、地域で子どもを見守ろうという雰囲気も濃い。

子どもたちの健やかな成長と、豊かな感性を培ってきたまち。二人が成長して手狭になり、阿部さん一家は間もなく住み替える予定だが、次の住まいも迷うことなく幕張ベイタウンに決めている。

「今が一番、家族が一緒にいられる時。環境に恵まれたこのまちで、かけがえのない家族の時間を大切にしたい」

このまちで過ごす日々は、夫妻はもちろん、やがて巣立つ子どもたちに、何ものにも代えがたい宝物となることだろう。

「この浜でマテ貝が捕れるんですよ」と豊さん。住まいのすぐそばに自然がある。





子育てを支援

UR都市機構の団地は子育て支援にも積極的に取り組んでいる。アルビス旭ヶ丘(大阪府豊中市、写真右)には、敷地内に大阪国際文化協会が運営する子育て支援センターがある。幕張ベイタウン(千葉県美浜区、写真下)などには、団地内に乳幼児を持つ母親が集う「子育てサロン」がある。



災害公営住宅の建設

東日本大震災によって大きな被害を受けた東北地方。UR都市機構は岩手・宮城・福島3県の22地方公共団体で復興支援事業を行っている。これまで岩手県大槌町(写真右)、宮城県女川町(写真上)に災害公営住宅が完成。新たなコミュニティづくりが始まっている。



若者に人気の書店ヴィレッジヴァンガードとコラボした壹場団地(名古屋市中区)の、カーテンでゆるく仕切られた住戸「間shikuru」。



イケアと共同で、左近山団地(横浜市旭区)など4団地で住まいのリデザインに取り組む。



京都女子大学生生活造形学科の学生たちが、築30年以上になる洛西境谷東・洛西竹の里団地(京都市西京区)をリノベーション。

大学や民間企業とのコラボ続々

団地のリノベーションや、モデルルームを通した暮らし方の提案。UR都市機構では積極的に大学や人気ショップ・企業とのコラボレーションを展開中だ。

豊四季台プロジェクト進行中!

柏市と東京大学高齢社会総合研究機構、UR都市機構が進めている豊四季台プロジェクト。医療・介護などが連携、在宅医療を推進する取り組みや、高齢者が活躍できる「生きがい就労」などが進行中。

柏市が市の医師会・歯科医師会・薬剤師会とタッグを組んだ初の試みである「柏地域医療連携センター」。4月にオープンした。



「柏地域医療連携センター」では柏市の福祉政策課のスタッフが常駐して、主に在宅医療に関する住民からのさまざまな相談を受け、各所との連携を図っている。



学研ココファンが運営するサービス付き高齢者向け住宅と、地域包括ケアシステムの拠点となる医療介護施設からなる「ココファン柏豊四季台」が5月にオープン。1階部分には医療・介護サービス施設を集中させ、団地内だけでなく近隣地域の高齢者の生活を支えている。



上/建替えられた団地の中には、緑あふれる「四季のみち」が通っている。ケヤキの大木の緑陰が心地よく、道のかたわらには伐採した樹木で作ったベンチが置かれている。



右/団地の中心に造られた公園には、健康増進のための器具なども設置してある。

進化する
団地
現代事情

子どもから
お年寄りまで
住む人に寄り添う
新しい団地へ

第一号の団地誕生から60年近くたち、団地の様相はさまざまに変化。その団地を支えるUR都市機構は平成16(2004)年に誕生した。

団地を再生する 多様な取り組み

団地が生まれて58年。価値観が多様化する中、環境問題への関心が高まり、サステイナブル(持続可能)な住環境づくりが大きなテーマとなっている。老朽化が進んだ団地の建替えを機に、団地ごとの特性に応じた多様な手法で再生・再編が始まっている。

ひとつの事例として、千葉県柏市にある豊四季台団地を紹介しよう。東京オリンピックが開催された昭和39(1964)年に完成した豊四季台団地は、全103棟、4666戸、敷地面積約32・6ヘクタールのマンモス団地だ。

行政や大学と手を組み 高齢化社会の試金石に

完成から50年を経て、この団地は高齢者率が上がっていた。ここをこれからの日本の高齢化社会の試金石ととらえ、UR都市機構は柏市と東京大学と連携。団地全体が医療介護施設という発想のもと、「高齢者がいつまでも在宅で安心して生活できるまちづくり」を目指した団地再生の取り組みを進めている。

現在の豊四季台団地を見ると、広大な敷地の中心部を居住者の交流の場となる地域全体の拠点として、ここにサービス付き高齢者向け住宅が建てられている。そこには地域包括支援センターや子育て支援施設、診療所、薬局などを集中させた。この高齢者向け住宅に隣接して、約1ヘクタールの公園を整備。子ども連れの母親でにぎわう公園と道路を挟んだ向かいには、柏市と市の医師会・歯科医師会・薬剤師会で運営する「柏地域医療連携センター」が誕生。在宅医療をはじめ医療全般の相談・調整を目的に、今年4月から運用が始まっている。

豊四季台団地は順次、建替えを行っており、現在、一部の賃貸住宅が完成、「コンフォール柏豊四季台」として、環境に配慮した新しい団地に生まれ変わった。

UR都市機構は、これ以外にもさまざまなプロジェクトを進めている。その根底にあるのは、子どもからお年寄りまで、すべての人にやさしい住まいづくり。団地は今も昔も時代の先頭をゆく「憧れ」の住まいであり続けている。

人気プロガーの 団地DIY術 ①

団地をリノベーションすることで、自分らしい、心地よい暮らしを実現している東西の人気プロガーが交替でDIYの楽しみ、ポイントを伝授します！

Blogger
Kume Mariさん(関西在住 夫と子どもとの3人暮らし)



タイル貼り、
対面式カウンター付きのキッチン



Before 2010年
入居当時のキッチン。
家族と話しながら料理することに慣れていたので、対面式カウンターが完成したときの喜びはひととき。タイル貼りに板壁など、DIYの楽しさを教えてくれたカウンター。



After 2014年
2014年、幼い息子が食器に触れないように、安全を考えてキッチンカウンターに扉をつけました。こんな風に自由に作り変えられるのもDIYの魅力。



Kitchen Counter
入居してから4年間。くるくると表情を変えてきた、愛しい我が家のキッチン。銀色のシンクにベニヤ下地をマスキングテープと両面テープで固定して、上からタイルを貼りました。ベニヤとタイルの間には水が入りこまないよう、目地はコーキング剤で埋めました。

築 46年の賃貸住宅に入居したのは2010年の1月。寒い季節で、ひと昔前のキッチンはお湯も出ない、換気扇もない。ただそのための穴がポッカーと空いていて風の通り道に。甘い新婚生活に夢を抱いていた、人生で一番幸せな時のハズなのに、隙間だらけの鉄窓で、心も体も寒くて震えていた……というのが今では夫婦の間では笑い話です！

最初は落ち込んでいた私ですが、これをキッカケにDIYと出会いました。ないものに嘆くよりも、自分たちで作ればいい！ そう思えるようになってからは、この家も、DIYも大好きになり、原状回復を基本に今も暮らしを最大限に楽しんでいます。

キッチンのポイントは、色や素材を揃えて統一した空気感を出したことです。毎日使うグラノーラや雑穀米などは、揃えた瓶に入れ替えると見た目もきれいで、気持ちいいです。

Kume Mariさんのブログ「Smile! Happy! Sweet Home!」
<http://ameblo.jp/magichappiness/>

「UR PRESS」オンライン版では関東在住のプロガー MakeesさんのDIY術を紹介しています。「UR PRESS」で検索してください。次号はMakeesさんが誌面に登場。テーマは押入れです。

間取りの手帖
佐藤和歌子/リトルモア 950円(税別)

三角形の部屋、窓だらけの部屋など、世の中に実在するへんな間取り部屋を集めた本書。どんな意図で設計された部屋なのか、住人はどんな暮らしを送っているのかなど、想像力を働かせて読むとおかしみが倍増します。



ぼくの住まい論
内田 樹/新潮社 1,400円(税別)

思想家・内田樹さんが土地の購入から自邸兼道場「凱風館」を建てるまでのエピソード、そして住まいと地域や社会との新しい可能性を探る1冊。「家づくり」の参考書としてもおすすめです。



ス イスはレマン湖沿いの小さな村にその家があります。その完璧に均整のとれた真っ白い小さな家は、近代建築の三大巨匠とも呼ばれる建築家、ル・コルビュジエによって、彼の両親のために設計されたもの。彼は住宅に対する考え方を本書の中でこう語ります。「最小限の実用性が得られるように、適切な寸法をもつ簡明な機能に分かつこと。さらに、空間が有効に活用できるように、それらを効果的に組織すること。各機能は許される限り最小の面積を占めること。」



小さな家—1923
ル・コルビュジエ/集文社 1,500円(税別)

ブックセレクト
三田修平

みたしゅうへい
ブックディレクター。移動式本屋「BOOK TRUCK」で全国各地のイベントなどに参加するほか、2013年には大倉山集合住宅I(神奈川県)内に「BOOK APART」を開店。
<https://www.facebook.com/Booktruck>

世界の扉を開く本 ①
今号のテーマ
住まい



ベランダ菜園の楽しみ ①

たなかやすこ

今号のテーマ

見た目が大事。
眺めて美しく、料理にも重宝!



我が家は駅から徒歩3分の集合住宅。ベランダには20種類以上の野菜やハーブが育っています。菜園を始めたきっかけは、友人がくれた一房のミニトマトでした。その有機的な美しさに驚き、感動し、生命力にあふれる姿を「絵に描いてみたい」という思いが沸き起こりました。さっそく近所に畑を借り、園芸書を頼りに夢中で野菜づくりを開始。その3年後、植物の成長過程をより身近で観察したくて、ベランダ菜園をスタートしました。

育ててみよう
ミニチンゲンサイ

cultivation

暑さ寒さに強く、初めての方にも育てやすいミニチンゲンサイ。種をまいてから40日ほどで食べられます。

- Step 1 コンテナ(プランター)に鉢底石を敷き培養土を入れ、種をまく前に土に水をたっぷり含ませる。深さ1センチの溝に5ミリ間隔で種をまき、土をかぶせる。
- Step 2 土が乾いたら霧吹きで水をやり、発芽したら日当たりのよい場所に置く。本葉が出たら込み合っているところを間引く(間引いた芽も食べられる)。乾燥ぎみに育てる。
- Step 3 本葉が5、6枚に育ったら(写真左)、根を切らないようにそっと掘り起こし移植するとよい(写真右)。空き缶などに移植すると、ちょっとしたプレゼントに重宝する。缶切りで底に6か所程度穴を開けること。
- Step 4 背丈が8センチ程度に育ったら食べごろ。種まきから食べごろまで約40日。アルミホイルで包んで蒸し焼きにするなど、姿を生かした調理法がおすすめ。



間引きながらコンテナで食べごろまで育てるとこんな感じ。ミニチンゲンサイは暑さに強く移植にも強い。ぜひチャレンジしてみてください。



ベランダ菜園で、初心者におすすめなのはハーブや細ネギ、今回紹介するミニチンゲンサイなどです。これらは丈夫で失敗が少ないだけでなく、「お料理の際に、ちょっとあると重宝するもの」でもあります。お弁当作りの途中で、「ここにちょっと緑がほしいな」と思った時にも、新鮮な葉がすぐに手に入るのでも本当に便利です。

また、ベランダ菜園は部屋から眺めて美しいかどうか重要なポイントですから、畑のように収穫を期待して単一のものを作るのではなく、さまざまなものを少しずつ植えて楽しむほうがしっくりきます。その点おすすめなのは寄せ植え。ハーブと野菜、花と野菜などの寄せ植えは、見て美しく、草花の栽培のように気軽に始められます。植物を組み合わせることで土中の養分バランスの偏りも減って、丈夫に育つのも魅力です。

たなかやすこ
イラストレーター、ガーデニングクリエイター。1957年北海道小樽市生まれ。著書に「とれたての幸せ。はじめてのベランダ菜園(集英社)、『おいしいベランダ菜園 シンプル&エコに育てる』(家の光協会)ほか。



田中 淳=撮影

「まちんど」で販売 震災を経てパワーアップ！奥松島のカキは格別です 奥松島水産 阿部晃也さん



奥松島のカキは大粒で濃厚、甘みがあるのが特徴です。これは豊かな漁場に加え、先祖からの教えを守りながら、手をかけて育ててこそのものです。震災後、栽培を手伝ってくれたボランティアさんなどに「こんなに苦労して、おいしいカキをつくってくれていたんですね」と言われたとき、こんなふうに変えられたことはなかったなあと思いました。震災

前、奥松島でカキがとれるのは当たり前だったので。目指しているのは、カキを中心に東松島の交流人口を増やすことです。震災を変革のチャンスと積極的にとらえ、カキの殻むき体験場を造るなど、夢を実現しながら頑張っています。おかげさまで「まちんど」からご紹介いただいて、県外からのお客さんも増えています。

大事に育てたカキをおいしいと言ってもらえる喜び。それが原動力です。10月から収穫し始める奥松島の自慢のカキ、ぜひてんぷらで食べてみてください。

東松島へ
仙台市から北東に約30kmの距離にある東松島市は、奥松島を抱える風光明媚なまち。仙台から東松島まで車で約1時間。JR仙石線は震災の影響で一部区間で運転を見合わせており、仙石線の松島海岸駅から臨時代行バスが運行している。

◆東松島の観光・物産の問合せ
東松島市観光物産協会
☎0225・87・2322



Higashimatsushima Data

嵯峨溪の遊覧船観光では、風光明媚な奥松島の景観を楽しめる。遊覧船の問合せは ☎0225・88・3997

ハード・ソフトの両面で協力したい

UR都市機構が、東松島市と復興整備事業の協力協定を締結したのは2012年2月。以来、野蒜北部丘陵地区と東矢本駅北地区の復興まちづくりを担当し、津波で被害の大きかった危険区域から移るため、内陸の安全な場所に住宅地を新設する工事を進めている。現地のUR職員が心がけているのは、地元の人々の思いを大切にしながら、安全最優先での一日も早い復興の実現だ。

奥松島を抱える野蒜地区では、造成地と海の間緑地を残し、海からは造成地が隠れるようにするなど自然景観に配慮。膨大な土砂の搬出には、総延長距離1・2kmのベルトコンベヤーを導入し、搬出期間の短縮を図っている。計画・工事をスムーズに進めるため、UR都市機構・東松島復興支援事務所は、関係機関との調整に日々尽力。常に心にあるのは、ハード面だけでなく、東松島の魅力を広く伝え、この地を盛り上げるための協力だ。「新しいまちづくりで重要になるのは、人やモノのつながりです。そのときに生かせる接点を少しでも増やす協力をしたい。地元産品



復興の「今」を見に来て！

第1回

とびきりの美味を揃えて待っています

東松島市
宮城県

東日本大震災で7割以上の住宅が全半壊し、基幹産業の農林水産業も甚大な被害を受けた東松島市。復興工事が進む中、地元産品を扱うアンテナショップが中心となり、地元の魅力再発見と新たな情報発信活動に取り組み活気づいている。



東松島ふれ愛いちば まちんど
東松島市大曲字寺沼194
☎0225・25・6676

みんなが笑顔になれる店を目指して地元の魅力を発信中の「まちんど」スタッフ。左から千葉ゆきさん、伊藤せい子店長、立花由貴さん。松島基地所属の航空自衛隊ブルーインパルスのグッズも販売している。

URは一日も早い完成を目指して頑張っています

左から東松島復興支援事務所の小原正夫総括役、清水良祐所長、大成JVの大塚正行副所長。



の紹介もそのひとつです」と清水良祐所長は語る。野蒜地区の宅地の完成予定は2016年度。それに先立って運行再開予定のJR仙石線の移設・再開に向けた造成工事でもURが担い、6月末にJRへ土地の引き渡し完了。現場では懸命な作業が続き、復興への歩みを進めている。



92haの広大な宅地開発が進む野蒜北部丘陵の造成地から、ベルトコンベヤーを使って1.2km先に土砂を搬出。1日に搬出される土砂は10トントラック1,650台分で、現場では早朝から日暮れまで途切れることなく作業が続けられている。土砂は海岸の護岸防工事や農地の整備に利用される。



東矢本駅北地区の現場では、災害公営住宅の建設が進行中。第1期として47世帯が今年11月に入居予定だ。

「ここは津波で壊滅的な被害を受けた地域です。ふるさとを失い、避難先で暮らしている人たちがいつでも戻って来られる場でありたいですし、東松島の特産品を多くの人に知ってもらい、生産者を応援したい」と語るのは、「まちんど」の伊藤せい子店長。震災を経て、以前は当たり前であった地元産品の魅力、豊かさに気付かされたという。海苔を見ているお客さんがいれば、「作り手によって味が違うので、ぜひ食べ比べてみてください」と

「ここは津波で壊滅的な被害を受けた地域です。ふるさとを失い、避難先で暮らしている人たちがいつでも戻って来られる場でありたいですし、東松島の特産品を多くの人に知ってもらい、生産者を応援したい」と語るのは、「まちんど」の伊藤せい子店長。震災を経て、以前は当たり前であった地元産品の魅力、豊かさに気付かされたという。海苔を見ているお客さんがいれば、「作り手によって味が違うので、ぜひ食べ比べてみてください」と



女性の視点で商品開発に取り組む「のり工房 矢本」のメンバー。左から平塚和子さん、栗石まきさん、津田清美代表、本田千佳子さん。

「観光もできるようなったので遊びに来てください。おいしいも

「なんとかが頑張っていますが、ときに迷い、不安になることもありますが、そんなとき、お客さんの感想やこの海苔を一度食べたら、他には戻れません」と、励まされ、また頑張らなきゃと意欲が湧いてくるんです。同社の津田清美代表の言葉からも消費者との距離が近く、リアルな反応が得られる「まちんど」が、生産者の応援の場になっているのがよく分かる。また、景観美を誇る嵯峨溪の遊覧船運航が再開するなど観光サイブスも復興しつつあり、東松島では明るい話題が増えている。「観光もできるようなったので遊びに来てください。おいしいも

UR都市機構からのお知らせ

INFORMATION

フォト&スケッチ公募展の作品募集中

UR都市機構では、「東日本大震災 復興フォト&スケッチ展2014」および「UR賃貸住宅 団地景観フォト&スケッチ展2014」と題した公募展の作品を募集しています。テーマに合わせて皆さまの写真、スケッチをお寄せください。

●応募締め切り 平成26年9月24日

●テーマ

東日本大震災 復興フォト&スケッチ展2014
→「復興の歩み〜いとなみ、絆、再生、希望〜」
UR賃貸住宅 団地景観フォト&スケッチ展2014
→「ふれあいの団地〜笑顔の集まる場所〜」

●応募方法

郵送またはインターネットからご応募いただけます。詳しくは右下のURLからご確認ください。

●応募規程

写真：郵送の場合は2L (127×178mm) サイズのプリントにして応募。ネット応募の場合は1点当たり500KB以上2MB以下のサイズで送信。
スケッチ：B4 (257×364mm) サイズまで。画材自由。

●応募資格

プロ写真家や画家の方以外ならどなたでもご応募いただけます。

●賞および賞品

復興フォト&スケッチ展2014には「復興の歩み大賞」、団地景観フォト&スケッチ展2014には「フォト大賞」「スケッチ大賞」はじめ各賞があります。
大賞には、商品券と震災復興関連ギフト、合わせて10万円相当分、各賞に賞品があります。

From Editors

表紙が写真からイラストへ。また、内容も全面リニューアルしました。お楽しみいただけましたでしょうか？ 今回の取材で宮城県東松島市へ行きました。復興が行われている傍らで住民の方々が本当に元気な姿を取り戻していることに感動しました。機会がありましたら、是非、復興の現場にも足を運んでみてください。「UR PRESS」オンライン版では本号からスマートフォンでもご覧いただけるようになりました。あわせてお楽しみいただければ幸いです。(UR都市機構・広報担当M)

次号のお知らせ

「UR PRESS」39号は10月末発行予定です。お楽しみに！

平成25年度 役職員の報酬・給与等

UR都市機構の役員の報酬及び職員の給与水準等について、総務省の定めるガイドラインに基づき、UR都市機構のホームページに掲載しています。

<http://www.ur-net.go.jp/koukai/hoshusuijun.html>



UR フォト&スケッチ展 で 検索



●問い合わせ 「フォト&スケッチ展」事務局
☎03-3272-6098 10:00~17:00(土日、祝日を除く)
<http://www.ur-net.go.jp/urbandesign/sumit/contest2014/>

「UR PRESS」オンライン版もお楽しみください！

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS で 検索



<http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>

URのツイッター

UR都市機構のツイッターでは、イベント、キャンペーン、募集情報などをタイムリーに発信しています。こちらからぜひアクセスして、最新の情報をゲットしてください。

http://twitter.com/UR_TOSHIKIKOU/



プレゼント付きクロスワードパズル

パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- 『白鳥の湖』のオデット姫を演じたりします
- 身中の虫 ——舞
- 海流 ——ヤマネコ
- 千切りにして刺身のつまにしたりします
- 海岸に寄せては返します
- 口づけのこと
- 虫から身を守るために吊ります
- おかあさんとしての特質。——本能、——愛
- ゆがんでいる状態
- びーんと張って「もしもし」
- ふりだしからあがりを目指す
- シオマネキもこれの一種
- (底辺)×(——)÷2=(三角形の面積)
- 京都のお茶の産地
- 朝、——をあけて、「いってきまーす」
- アルファベットの3番目

タテのカギ

- この中に皿やコップをしまいます
- 社会科の授業で日本や世界の——を学んだ
- あり気にはほほえんだ
- 木の実が似合う小動物
- 板わさといえばこれにワサビを添えたもの
- な顔ひとつせず引寄せた
- 健康のため、食物——を含む食べ物を摂るようにしているんだ
- 瓜の蔓に——はならぬ
- 1——は婦人服売り場です
- 肉や野菜、いろいろな材料を入れた煮物
- 相撲 ——試し ——まくり
- 雨上がり、水たまりに入ったら——がはねた
- ポエムを作る人
- ネックレスやピアス、ブレスレットの総称

1	6	9		15		21	23
				A			
	7			16	18		
2			12				
		10			19		
				C			D
3				17			
		11	13			22	
4	8				20		
5				14			
				E			

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT 東松島

1 のり詰め合わせセット 5名様

本誌19ページでご紹介している宮城県東松島市の「まちんど」で人気の、「のり工房 矢本」の味のりと新のりのセット。お弁当などで時間が経って冷めてもべとつかず、美味しく食べられる東松島自慢の品。皇室献上品に選ばれるのも納得です。



PRESENT

2 『小さな家—1923』ル・コルビュジエ著 3名様



本誌18ページでご紹介している『小さな家—1923』をプレゼント。世界的建築家が両親のために建てた小さな家が、この一冊に。

●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

●応募締め切り

2014年10月31日(当日消印有効)

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

37号の解答

A ガ B ン C バ D ッ E へ

1	ハ	ミ	ガ	キ	サ	ク	ラ
2							
3	バ	ニ	ラ	シ	ン	セ	ン
4							
5	タ	ス	イ	ツ	チ		チ
6							
7	キ	シ	イ	キ	ヨ	ウ	
8							
9		ユ	ビ	ワ	ウ	ン	ガ
10							
11	へ	ン	ケ	ア	メ		
12							
13	ツ	キ	ヨ	オ	モ	イ	デ
14							
15	ト	コ	ク	バ	ン		シ